

長久手合戦図屏風の復元模写について

1 長久手合戦図屏風について

- (1) 天正12年（1584）4月9日に、徳川家康・織田信雄連合軍が、羽柴（豊臣）秀吉側の池田恒興・森長可らの軍勢を長久手で撃ち破った戦いである「長久手の戦い」を描いた屏風である。

今回の復元模写は、江戸時代後期に制作された徳川美術館所蔵の長久手合戦図屏風をもとに制作する。

- (2) 屏風の寸法（六曲一隻）

幅366.0cm、高さ157.9cm

- (3) 複製作品の制作期間

令和3年11月から令和7年3月まで

2 制作費用

金19,441,208円



「長久手合戦図屏風」（徳川美術館所蔵）